

## ○ 近隣支援体制づくりの手順（モデル案）

①自主防災会を作ります（ブロック単位）。

・ 自主防災組織の規約案の作成  
ブロック単位の自主防災組織を作ることにより市の自主防災組織補助金を活用することができます。

②自主防災会に要援護者班をつくります。



③町内会住民に災害時要援護者・要援護者班のことを回覧でお知らせします。



④市の災害時要援護者名簿一覧から要援護者を組ごとに分けます。



・ 要援護者を組を一番小さな単位として分けます。

⑤要援護者班の班員が活動する範囲を検討します。



・ 要援護者班の班員が、無理のない見守り活動を行えるようにします。

⑥要援護者の状況を確認します。



・ 災害時要援護者自身が近所で手助けを頼むことができる人がいれば、その方と要援護者班の班員で見守ります。（←グループ+近隣支援者での見守り）  
・ 頼むことができないようであれば、要援護者班の班員で見守ります。（←グループでの見守り）  
・ 要援護者の状況は、市の災害時要援護者台帳の裏面の避難支援レベル調査表で確認します。  
※台帳の裏面に個人情報の公開に同意してもらってください。  
※確認した情報を台帳に書き込み、市へ提出すると、市が台帳更新時に整理し、修正した台帳をお渡しします。

⑦要援護者班の緊急連絡網を作ります。



⑧要援護者班の緊急連絡網を支援者に配布します。

更に活動を進めるには、

■ 手作りハザードマップの作成（←清須市の自主防災組織補助金の対象）

①「災害時要援護者名簿一覧」から要援護者を地図上に落とし込みます。

②避難場所・避難ルートをマップに書き込みます。

■ 見守り活動

ブロック社協のふれあいいいききサロンなどを利用して、見守り活動を行います。